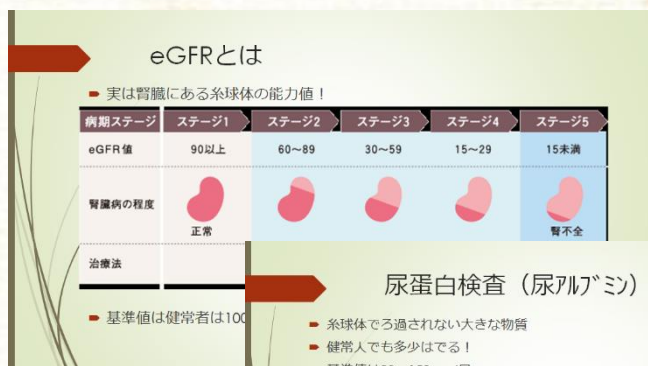


第4回腎臓病教室のご報告

- 令和元年10月3日（木）に、ふたばホールにて開催しました。
- 今回のテーマ：「腎臓病の検査データの見方」
「腎臓病に関わる疾患の予防と管理」
- 18名の方に参加いただきました。

腎臓病の検査データの見方

担当：
臨床検査技師
園田 真之
（臨床検査部）



尿蛋白検査（尿アルブミン）

- 糸球体でろ過されない大きな物質
- 健康人でも多少は出る！
- 基準値は20～150mg/日
- 尿蛋白の10～30mg/dlはアルブミンで、残りは低分子蛋白や尿管由来の蛋白質
- アルブミンは大きな蛋白質なので、このアルブミンが出れば出るほど腎臓の機能が低下しています。
- 検査方法として、診察前に尿コップで取ってもらう随時尿検査と、24時間尿を貯めて検査する畜尿検査があります。



腎臓病に関わる疾患の予防と管理

担当：
管理栄養士・腎臓病療養指導士
田中 奈美恵
（腎臓病療養指導室）



腎臓と他臓器関連

- 腎臓はヒトが生きていくうえで生じてくる老廃物を尿として排泄することはもとより、**レニン・エリスロポエチン・活性型vitamin D**に代表される各種ホルモンの内分泌臓器としても機能しています。
- 腎臓はヒトにおける体内環境調節に、多くの他臓器と共同作業で働いているため、腎臓に生じた異常は、他の臓器にも影響を及ぼすことがあります。



慢性腎臓病の管理

	管理目標値
血圧	130/80mmHg以下
血糖	HbA1c：6.9%未満
脂質	LDLコレステロール： 120mg/dl未満
尿酸	7.0mg/dl以下
貧血	Hb：10～12g/dl

腎臓病教室の様子

講義



腎臓食品試食



試供品



指導資料



参加者のご感想

- もう少し時間が欲しい。
- 年と共に理解が難しいです。特に横文字が・・・。
- 今回のお話は思い当たる事が多く大変勉強になりました。検査値は理解できていないと分からないので、今後もこのお話し続けてください。良いお話しなので、もう少しゆとりを持って聞きたいです。
- カリウムを抑えながら栄養の摂り方が難しい。
- データの見方ありがとうございました。外食の塩分・たんぱく量を出す為に、自ら実践され御苦労様でした。
- 食事指導が聞きたい。
- いつもありがとうございます。

次回腎臓病教室は
12月5日(木)です



テーマ	担当
感染予防について	感染管理室
年末年始の過ごし方	管理栄養士

お問い合わせ

公益財団法人丹後中央病院
TEL:0772-62-0791(代)

主治医・外来スタッフにおたずねいただいても結構です。